

第二章

第二節

江戸時代の病気

～疫病の治療法がなく、神仏にすがっていた時代～

江戸時代の人々はまだ、細菌やウイルスの存在を
知りませんでした。原因が分からないせいで、
有効な治療法も見つかるすべもなく、天然痘、
はしか、赤痢、コレラなどの恐ろしい感染症が
突然、大流行。神様や仏様にすがるしかない時代が
しばらく続きました。

一方、頭痛、腹痛、風邪、痔といった、現代人にも
おなじみの病気にも、悩まされていたようです。



神加不捉太不守屋
藥種不病一むむく
されども邪道正法一敵
せ其病ひあうく名藥
銘々ありく是と退治
無二病是はあうく名藥
の御代よむくくさる候
画工の筆はくせ諸病諸
藥の戦ひを圖して推君
達れり此をわすれんは
れざる名藥は病後編
あうく高覧せ七めん
やあうく一板え

薬と病の合戦図

方乃病方此某

病藥道戲競

初編

行司

小田原外郎八棟

中田銘方底豆

勞症ふさふさ道淳吉進

寸白餘寒定腰痛丸元

烏犀角源頼朝

大傷寒火燃入道

大関 奇應丸源吉常
小結 順氣散熱湯蜜
前頭 熊膽治郎直愈
前頭 實母散植竹
前頭 木町三龍丹煉藥
前頭 久喜之判官眼藥
前頭 龍王湯並道治丸

奇妙三郎振出
一角丸毒解
鞍馬相傳角力膏
腎臟子牛肉丸
大和 大峯陀羅助神方
大坂定所霍乱
痢病丸早直
太補湯十全
仲町錦袋圓
平松七夜乳垂

遠鍛治橋瓢筆舩
名倉療治骨接
加藤洲虫除
指之妙某本戸際
吉川孫太郎虫公
達魚厂痲病目印
幸丰茂兵衛根絶
佐采長今左悦喜
人參梅花之葉熏
胸腹一切廣丸

世文文後四ツ門
或合徒枯越
袖の梅太府物吉
鐘發のち子系
ねあけけま安虫
びさう湯ある舞
五さう舌言立
即切紙次郎法紙
外科の療治業
打汁老人二ち門
岩太所ぎん山
安く寺子引

大関 痲瘡膏守人神王
小結 惡疾兵衛壁濕
前頭 中風之進床永
前頭 癩源大差込
前頭 逆走之太郎血道
前頭 黃疸四郎規吞汁
前頭 咳之太郎痛胸

狂氣治郎乱心
癰疔騷寺時爰
病目之判官切赤
便毒之八郎踏出
酒腹平生吞過
鼻風引王丸
天窓泥鱈白雲
吐逆左門食傷
鷹瘡脛右雨足病
五痔之十郎髮拔

雷飲隼人水吐
伊丹尻之元根布
痲病苦勞紙卷
張滿太郎腹張
小便近之助消渴
慢驚馬風急變
早打行田八郎
虫之世伊之助壁土
小兒陀々丸夏星
淡利腹右門度々

火あやせりの助火肥
毛髪國の太師の
なきのふの白の
むきれいこ口明
ひどの利友志と井
とり目あるあふれ
人面を治ひさめ
うじあわれぬ日
抱りくのをとに
あやうなふと
それ病の心水さし
とむらうらうら



風俗三十二相 あつさう 文政年間内室の風俗

流行虎列刺病豫防の心得

此節世上に専ら虎列刺病流行一忽傳染おちふと云因て其豫防の注意一須臾のゆるぎせぬ先此病憂を防ぐ
 一の第一。廁。下水等 其他不潔臭気のある所へ日々二三度マ
 緑礬又ハ。石炭酸等をさぐべー。養生法に身体をうごけ
 少一汗をひとすと。衣の常より少一あつて

夜具の常よりあつて木綿にて
 腹とまき寝る時も取らぬやうにさぐべー。飲食ハ
 分量よりひるえめに。日々少一。蕃椒。胡椒

一若此病不感一と一芳香散と云藥
 法ハ。益知。桂枝。乾姜。八分。丁子。四分

細末ハ一度分量五六厘より一分と一色にて
 冷水にて日々四度位々用ゐべー吐瀉の氣つこ

先 此藥を用ゐべー。芥子の粉(四父の温純粉二父とあつてめくる
 酢あてかきわり木綿の片布にのぎ。檀尾(貼り少一いこを

覚へ肌の赤くある時取捨べー。小兒ハ。芥子二父の温純粉

(四父の焼酎と)つめて木綿にひじ腹と蒸し早く函負を招きて腹薬をさぐ
 右の法にて輕きハ熱とさぐ汗出快氣あるととも輕忽ふまへるべし

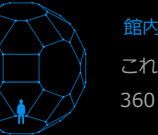
上野北門早十番地
 画工 橋本直義
 東福田早二番地

コレラ
 流行虎列刺病予防の心得

館内企画展アーカイブ

バーチャル展示室

THE VIRTUAL
EXHIBITION ROOM 360



館内企画展アーカイブ **バーチャル展示室360** › <https://www.tcm.it.org/360virtual/>

これまでにトヨタ産業技術記念館で開催した企画展をご紹介しますデジタルアーカイブです。

360度VRコンテンツで、臨場感溢れるバーチャル展示をお楽しみください。



トヨタ産業技術記念館

当サイトに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。

Copyright(C) Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology All rights reserved.